

極薄金属箔製作を強みに金属箔総合メーカーへの転身

金属箔製造において生産性の低い製造環境を最新設備で革新した。クリーン環境下で金属箔が製造できる生産ラインは顧客の評価も得られ受注が増えている。新型コロナウイルスで市況が冷え込む中、収益を支える事業になりつつある。



当社専用のフィルターを設計、作業環境のクリーン化を実現



簡易クリーンブース内に設置された自動切断機

補助事業のきっかけ

・当社は厚さ0.005mm以下の超極薄箔の金属箔を製造でき、顧客の要望に応じて1枚から製作している。近年、設備更新が遅れており取引先の依頼に対応できない案件が目立っていた。また、設備が旧式であることから作業工程あたりにかかる人員が多く生産性の低い状況だった。

・新型設備の購入には1,000万円以上かかるので投資余力が不足していたが、ものづくり補助金を活用することで投資が可能となった。

事業計画の概要

・補助事業では、ろう材等の軟らかい材料の切断を得意とする自動切断機を購入した。また、これまで外注していた板厚0.2mm以上コイル材を切断できる自動切断機を購入した。

・簡易クリーンブースを導入し、作業環境のクリーン化を実現した。

事業化状況

・補助事業により作業環境のクリーン化、生産性が高まり、期待通りの成果が出せた。これにより、受注できる案件が拡大し、新型コロナウイルスで市況が低迷し売上が7割減少する中でも、新規案件が受注できるようになり、収益力が強化できている。

研究用途の金属箔でニッチな需要に応える

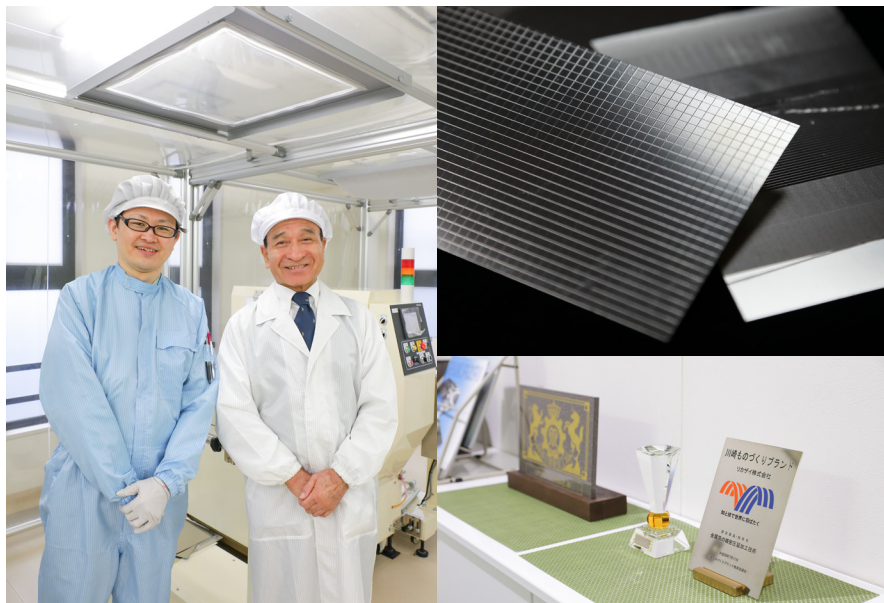
当社は世界一薄い金属箔を手作業で製造しています。金属箔製造を自動化する企業もありますが、自動化では薄くできる厚みに限界があります。手作業は一見非効率に見えますが、職人の作業によって実現できる極薄金属箔の世界があります。大量生産ではないですが、研究開発用の小サイズで少量のニッチなニーズに応えながら事業を展開しています。

今回、生産設備の老朽化により競争力が低下していた自動切断機の設備投資を行い、軟らかい材料、板厚が厚めのコイル材の切断を可能にしました。また、簡易クリーンブースも設置し、粉塵をクラス10000に制御したクリーン環境で作業が可能になりました。当社の事業環境では、大手企業は材種にもよりますが、板厚の厚い領域を得意とします。中小規模の競合他社は5ミクロンメートルまでが量産レベルとなっています。当社はクリーン環境を実現したので、粉塵に弱い極薄箔も製作でき

るようになり、さらに製造可能な板厚の範囲が広がり競争力が高まりました。新型コロナウイルスの影響で売上が減少する中、本事業の成果で新規顧客も獲得できており、期待以上の成果を実感しています。

現場主導で推進した事業

補助事業は製造、技術、営業の各部門横断的にプロジェクトチームを作り、主任をリーダーにしました。トップダウンで設備を導入するのではなく、現場が必要な仕様を考え設備を選定し、メーカーと調整をしてもらうためです。必要に応じて経営層がサポートしましたが、現場主導を重視しました。当社の製造部門の平均年齢は30代と若く、この事業が育成の機会になったと感じます。事業終了後も社員自ら設備を使いこなすための勉強会をするなど、責任感を持つて取組んでいます。高度な性能を持つ設備も、モノを作る人の思いや技能、ノウハウがあってフルに性能を発揮できるものだと思います。そして良いモノができれば作り手の意欲も高まります。そのようなサイクルを大切にしたいと考えています。



左/補助事業リーダーの主任 伊藤さん(左)と代表取締役の小室 好夫氏 右上/純マグネシウム厚さ10μm 純マグネシウムでは世界一薄い箔(製造は1μmまで可能) 右下/技術力が認められ受賞機会も多い



1947年に創業し、精密圧延板、超極薄金属箔、2次加工の製造を行なっている。圧延理論の構想をもとに、超極薄箔の製作に成功して以来、当社の製品は、航空・宇宙をはじめとして、産業機械、半導体、電子電気産業などあらゆる分野で使用されている。さらに精密圧延技術をベースとして、クライアントのニーズに合わせた形状・特性を持つプレーティングの生産体制を構築するため、基礎研究から製品試作、量産のパートナーとして展開している。

🏢 リカザイ株式会社

👤 代表取締役 小室 好夫

📅 1947年11月

📍 〒211-0011
川崎市中原区下沼部
1810-7

👥 22名

💰 2,000万円

☎ 044-411-6138

💻 金属製品製造業

取材の現場から

設備だけでなく製造現場のオペレーションや管理指針も大きく変革している。一般的に現場の変革は抵抗も生まれるが、補助事業をマイルストーンとし、事業目的や、国から補助金をいただく責任感等を全社的に共有して、段階的に取組んでいけたことも成果の要因と感じた。組織マネジメント面でも大変参考となる事例である。